トピックス

ホーナー通産大臣が来日
原子力協定議定書に調印

カナダのジャック・ホーナー通商産業大臣（写真）が八月に来日、日加原子力協定（一九五九年）を改訂する議定書に調印したほか、日加経済関係を促進するため園田外務大臣、河本通産大臣、土光日経連会長、槇田日本鋼管社長、野瀬電源開発副総裁、徳永石油公団総裁、大河原農林水産事務次官らと懇談した。またカナダと特に関係の深い北海道を訪れ、堂垣内知事と会談したあと、農林水産省北海道農業試験場や北海道家畜改良事業団道央事務所を視察した。

八月二十二日に調印された原子力協定の議定書は、両国が核エネルギーを平和目的のためにのみ開発し、いかなる形の核拡散あるいは核爆発も防止するセーフガード（安全保障措置）を確立する決意を表明したもの。これに関する交渉はすでに今年一月にまとまっていた。

なお、ホーナー大臣には、デ・ハビランド航空会社のティモンズ副社長、カナダ穀物審議会のディバー事務局長、農場経営者のタケタ氏、カナダ石油公団のウォルコット副総裁、シーフード・プロダクツ社のマケッカレン副社長、BC州林産業審議会のフィッシャー会長らが同行した。

カナダ人の余暇利用
大半がテレビ、ラジオを視聴

カナダの人々はどういう風に余暇を過ごしているだろうか。最近まとまった調査によると、一九七七年三月から七八年二月までの間に、成人のうち九五％がテレビを見、九〇％がラジオを聴き、八五ないし九〇％が新聞や雑誌または本を読み、およそ七五％がレコードやテープを聴いている。

何らかの運動をしている人は六〇％にのぼり、また全体の半数が趣味をもち、あるいは工芸品作りをしていると答えている。およそ三分の一の人々はコミュニティやボランティア活動に従事し、同じく三分の一が映画制作、写真撮影、絵画、彫刻などにいくらかの時間をかけている。

過去一年間に映画を見に行った人は全体の約半数。書店を訪れた人の数も、スポーツ観戦に行った人の数も同様である。また三人に一人が博物館、公立図書館、芸術・工芸展に行ったことがあり、四人に一人が演劇、フォークやロックあるいはジャズなどの演奏会、および画廊に足を運んでいる。さらに五人に一人はクラシック音楽や舞踊の公演会に行っている。

全体的にみると、成人の五五％が、一年間に博物館、画廊、演劇場、クラシック音楽会、図書館のいずれかに行っており、カナダ人は概してかなり文化的に余暇を利用しているようである。

カナダ研究講座
新講師にライト氏

筑波大学や慶応大学などで開かれているカナダ研究講座は、七月に帰任したエリック・ロス教授（マウント・アリソン大学、歴史地理専門）に代わって、九月からジェラルド・ライト氏（写真）が担当する。

ライト氏は、一九七二年以来、カナダの外交政策、法制改革および刑法制度、先住民族、北方カナダ、カナダ連邦の現状と将来、などの分野における研究を助成するドナー基金の副理事長。ハーバード大学で行政学の修士号（一九六五）、ジョンズ・ホプキンズ大学で政治学（国際関係）の博士号（一九七六）を取得。一九六五年以来、ヨーク大学を中心に、「西洋文明における最近の傾向」、「ソ連の政府と政治」、「ソ連における芸術、政治、知識人」、「カナダの外交政策」などを講義してきた。

食品科学工業国際会議の議長に
カナダ国際開発研究所のハルス氏

九月二十一日から京都で開かれる食品科学工業国際会議（IUFST）の議長に、初めてカナダ人が就任する。

議長に選出されたのはカナダ国際開発研究所（IRDC）の農業・食品・栄養科学部長ジョセフ・ハルス氏。ハルス氏はカナダ国際開発庁長官の特別補佐官、国連食糧・農業機構の上級職員、世界たん白質問題に関する国連事務局長付け特別補佐官などをつとめ、食品科学に関する著書や論文も多い。昨年は米国食品科学研究所から国際賞を授与されている。

刑務所で学士号
囚人に大学教育

ブリティッシュ・コロンビア州刑務所。そこの廊下をずっと行くと、二重になった鉄格子戸の向こう側にコンセットの建物がたっている。連棟式の建物の中には、七千冊の書籍を擁する図書館と、小さな教室、それにタイプやゼミ用の小部屋。

建物の入口に「ビクトリア大学」と書かれているように、ここは同大学のれっきとした一部門である。学生は総勢二十二人。ほとんどが長期の服役者だ。そのうち六人が、今年ビクトリア大学の全課程を終え、学士号を得て卒業した。二人はサスカチュワン大学から学位を取得した。いずれも、入所前は高校もでていない。

ここで学ぶ囚人はきわめて熱心だという。「普通、大学では、授業を始めてから学生の反応があるまでに二、三週間はかかる。ところが、ここでは、二分もたたないうちに、自分たちの意見を述べる。しかも、ただ教科書に書かれているからといって、そのままう呑みにはしない」――というのは、州刑務所で哲学を講じているジェームズ・アイヤーズ氏の弁だ。

BC州刑務所に大学講座が取り入れられたのは一九七一年。ここで講義を受けて出所したあと大学教育を続ける者も多く、関係者はその成果に気をよくしている。今年の卒業生の一人フランク・ギニーなどは、学長賞を受けるほどの優秀な成績を上げた。

ところで卒業したあとどうするかという疑問が残るが、今年の卒業生の中にはいずれ大学で教えたいという者や、劇作家としてすでに好評を得ている者、準弁護士の資格をとりたいという者などがいて、将来への可能性に夢をふくらませているという。